

設楽町文化協会作品展示【展示団体紹介】

会期 令和8年 **10月28日(水)**～令和8年 **11月9日(月)** 9:00～17:00(火曜日休館)

会場 **奥三河郷土館** 2階ギャラリー、企画展示コーナー

ギャラリートーク&ワークショップ

日時 令和8年 **11月1日(日)** 9:00～17:00(火曜日休館)

会場 2階ギャラリー、企画展示コーナー 各団体のブース前

蜻蛉玉ばぶるす



令和8年5月から奥三河郷土館の学芸員として就任し、ガラス玉制作と併せて、設楽町をはじめとした奥三河地区の郷土の歴史や文化について調査研究を進めています。

今回の作品は「コバルトガラスと古の祈り」。
ガラスの色はガラス素材に添加され、金属や鉱物によって、その物質特有の色を生み出します。鉄は緑色、銅は水色、マンガンは紫が代表的な色です。

今回のテーマである紺色のガラスは、コバルトを着色剤として古より珍重されてきた色ガラスです。

様々な装飾品へと加工されたコバルトガラスの発色をお楽しみください。

津具いけばなの会



いけばなは、古くから親しまれている形式で、植物の自然の姿を大切にしながら、自分の感情を表現するものです。

自分のこころと向き合う時間でもあり、花のある暮らしを通じて、季節を感じ、日々の暮らしに心地よいゆとりと潤いをもたらしてくれます。

ギャラリートークの中では、当会のいけ手による、小さくいける実演（デモンストレーション）を行います。特別な道具がなくても、日常の器や身近な花を使って、暮らしを彩るコツをわかりやすく解説。

ぜひ五感でお楽しみください。

装賀きものの会



今回のテーマは「藍を愛す」

私たちは、着付けや展示を通じてその魅力を発信しています。
藍染（あいぞめ）の「発酵建（はっこうだて）」は、化学薬品を一切使わず、微生物の働き（発酵）を利用して藍の染液を作る、江戸時代から続く日本独自の伝統技法です。一ヶ月かけて発酵・熟成させた藍の葉（すくも）から生まれる深く美しい青は、日本の宝です。古来、解毒や抗炎症の「薬草」としても暮らしを支えた藍の着物は、身にまとうだけで心も体も健やかに整えてくれます。昔ながらの知恵が息づく藍の着物を、美しくまとう。私たちはその確かな価値を愛し、次世代へ繋いでいきます。

藍の着物が持つ美しさと健やかさを、あなたも一緒に感じてみませんか。

陶芸クラブしたら



生活に生かせる陶器作り、手びねりやろくろによる製作をしています。自宅工房や希望の教室会場へ出張し作品作りを行います。

今回は「五重すかしランプシェード」、「油てき、天目茶わん」を制作しました。ぜひご覧ください。

かたかご短歌会



日常の出来事や時事、心の動きなどを 31 文字で表現します。

「“季語は無く気軽に詠める短歌なら我が来し道の足跡に似て”」

「この歌を詠んだとき、どんな空気が流れていたんだろう？」そんな風に、作者の背景を自由に想像しながら、一首一首を宝探しのように楽しんでみてください。

したら絵画クラブ

「したら絵画クラブ」です。岩絵具やアクリル絵の具などを使い日本画を独学で勉強しているクラブです。

設楽町の美しい自然に囲まれながら、神話のような世界観の作品づくりに励んでいます。

一人でやっているクラブなのでマイペースな時もストイックな時もあります。絵を描く

ことが子供の頃から好きで、これから先も描き続けれたらと楽しみながら活動しています。



設楽写真クラブ



カメラが好きなメンバーが集まり、自由に写真を楽しんでいます。日常の中にも新しいものや珍しいものを発見し写しています。

「カメラが切り取るのは、ほんの一瞬の、限られた四角い世界です。ですが、その1枚の向こう側には、写らなかった風の音や、前後の時間、そして大切な物語が広がっています。どうぞ、目の前の景色から、あなただけの『つづきの物語』を自由に想像してみてください。

切り絵クラブ



まずは、一人でいつでも自由な時間でできることが最大のメリットです。また切れば切っただけどうなっているか確認できます。

今回は、「秋桜」、「祈りへの道」と題して制作しました。紙とカッターがあれば手軽に始められますので一緒にどうですか？ぜひご覧ください。

和実会



介護予防事業として、体操・歌・旅行・調理・陶芸・手芸・小学生との交流などを、月に1～2 度行っています。講師のご指導をいただいて楽しい時間を過ごしています。今回は、陶芸作品のコーヒーカップやアロマの花を使ったサシェ（匂い袋）を制作しましたぜひご覧ください。